JFEグループ
インベスターズ・ミーティング

２０１７年４月２７日

JFEホールディングス（株）

目次

1. JFEグループ2016年度決算

2. JFEグループ2017年度業績見通し

3. 第5次中期経営計画の取り組み状況

4. 配当について

5. ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ強化に向けた取り組み

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

1 .JFEグループ2016年度決算

JFEホールディングス

2016年度　決算概要

（億円）	2015年度 年間(A)	2016年度 上期	2016年度 下期	2016年度 年間(B)	増減 (B−A)	2016年度 前回公表(C)	増減 (B−C)
売上高（a）	34,317	14,995	18,094	33,089	▲1,228	33,200	▲111
鉄鋼事業	278	▲244	649	405	+127	250	+155
ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業	200	76	190	266	+66	270	▲4
商社事業	157	76	142	218	+61	210	+8
調整額	6	▲10	▲32	▲42	▲48	▲30	▲12
経常利益（b）（ROS）（b/a）	642 (1.9%)	▲101 (▲0.7%)	948 (5.2%)	847 (2.6%)	+205 (+0.7%)	700 (2.1%)	+147 (+0.5%)
特別損益	100	35	172	207	+107	200	+7
税前利益	743	▲65	1,119	1,054	+311	900	+154
税・非支配株主損益	▲406	▲18	▲357	▲375	+31	▲400	+25
親会社株主帰属当期純利益	336	▲84	763	679	+343	500	+179

HD連結一過性要因前経常利益

（億円）

	2015年度 実績	2016年度 実績
売上高（a）	34,317	33,089
経常利益（b）	642	847
ROS（b/a）	1.9%	2.6%
一過性要因	▲780	280
一過性要因前経常利益（c）	1,422	567
ROS（c/a）	4.1%	1.7%

JFEスチール
2016年度決算

JFEスチール　2016年度決算

	単位	2015年度 年間 (A)	2016年度 上期	2016年度 下期 3Q	2016年度 下期 4Q	2016年度 年間 (B)	増減 (B−A)	2016年度 前回公表 (C)
売上高	億円	24,451	10,724	5,831	6,936	23,491	▲960	23,300
経常利益 (ROS)	億円 (%)	278 (1.1%)	▲244 (▲2.3%)	380 (6.5%)	269 (3.9%)	405 (1.7%)	＋127 (＋0.6%)	250 (1.1%)
単独粗鋼生産量	万t	2,736	1,400	712	702	2,814	＋78	2,820程度
連結粗鋼生産量	万t	2,975	1,514	766	761	3,041	＋66	3,050程度
単独鋼材出荷量	万t	2,539	1,260	643	668	2,570	＋31	2,580程度
鋼材輸出比率 (単独・金額ﾍﾞｰｽ)	%	45.8	43.9	43.3	44.9	44.0	▲1.8	44
鋼材平均価格	千円/t	66.8	58.6	61.5	72.0	62.8	▲4.0	63
為替レート	円/ﾄﾞﾙ	120.6	107.3	106.1	114.3	108.8	11.8円高	108
期末為替レート	円/ﾄﾞﾙ	112.7	101.1	116.5	112.2	112.2	▲0.5	110

2016年度 前回公表(1/31) ⇒ 実績
連結経常利益　＋155億円内訳

JFEスチール

単位：億円

JFEスチール	2015年度 実績 A	2016年度 前回 (1/31) B	2016年度 上期	2016年度 下期	2016年度 実績 C	年度差異 2015年度→2016年度 C−A	年度差異 前回→今回 C−B
経常利益	278	250	▲244	649	405	＋ 127	＋ 155

- 数量・構成　±　0
- 販価・原料　＋　50
- コスト削減　±　0
- 棚卸資産評価差等　＋　30
- その他　＋　75 ⇨ グループ会社　等

合計　＋ 155

2015年度⇒2016年度 連結経常利益　＋127億円内訳

単位：億円

JFEスチール	2015年度 実績 A	2016年度 前回 (1/31) B	2016年度 上期	2016年度 下期	2016年度 実績 C	年度差異 2015年度→2016年度 C−A	年度差異 前回→今回 C−B
経常利益	278	250	▲244	649	405	＋ 127	＋ 155

- 数量・構成　±　0
- 販価・原料　▲1,000
- コスト削減　＋　300
- 棚卸資産評価差等　＋　980
- その他　▲　153 ⇨ 国内グループ会社、償却費　等

合計　＋　127

JFEエンジニアリング
2016年度決算

JFEエンジニアリング　2016年度決算

（億円）

	2015年度（実績）A	2016年度（前回見通し）B	**2016年度（実績）C**	増減（対前年度）（C−A）	増減（対前回見通し）（C−B）
受注高	5,094	5,000	**4,244**	▲850	▲756
売上高	3,975	4,500	**4,261**	＋286	▲239
経常利益	200	270	**266**	＋66	▲4

【主な増減要因】

（対前年度）
受注高　バイオマス等大型案件の出件時期ずれ影響により減少
売上高・経常利益　受注済プロジェクトの増加に伴い、過去最高値を更新(2期連続)

（対前回見通し）
受注高　海外案件等の出件時期ずれ影響により減少
売上高　工事進捗減少等の影響により減少

JFEエンジニアリング 受注内容

（億円）

分野	2015年度 実績	**2016年度 実績**	増減	2016年度 主な受注内容 ★･･･第4四半期 新規受注案件
環境	2,080	**1,574**	▲ 506	廃棄物処理施設　新設工事 国内2ヶ所、基幹改良工事 国内4ヶ所 ★シンガポール ガス化溶融炉建設工事 ★浄水場整備改良工事
エネルギー	1,595	**1,489**	▲ 106	バイオマス発電設備　国内2カ所 太陽光発電所 国内7ヶ所［★4Q：1ヶ所］ ★地熱発電所建設工事 ★福島ガス発電㈱向け　気化設備等増設工事
社会インフラ他	1,418	**1,181**	▲ 237	上信越自動車道豊洲高架橋床版取替 宮城県　橋梁改修 ★東海環状　高架橋鋼上部工事 ★新東名高速道路　高架橋工事 ★穀物貯蔵施設建設工事 船舶用バラスト水管理システム（商品名：バラストエース）413隻分［★4Q：178隻分］ 新潟地区トマト栽培施設
合計	5,094	**4,244**	▲ 850	

JFE商事
2016年度決算

JFE商事　2016年度決算

（億円）

	2015年度（実績） A	2016年度（前回見通し） B	**2016年度（実績）** **C**	増減（対前年度） （C−A）	増減（対前回見通し） （C−B）
売上高	17,564	16,400	**16,710**	▲854	＋310
経常利益	157	210	**218**	＋61	＋8

【経常利益の主な増減要因】

（対前年度）
国内は前年並み、海外事業にて増益

海外事業　・堅調な中国やタイの自動車・電機分野を中心に数量増
　　・米国Kelly Pipe等のグループ会社での収益改善

（対前回見通し）
・販売単価の改善やグループ会社での収益改善等により、前回見通し比増益

（参考）JFE商事 セグメント別売上高実績

（億円）

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">2015年度実績</td><td colspan="2">2016年度実績</td><td colspan="2">増減</td></tr>
<tr><td colspan="2">国内</td><td colspan="2">9,053</td><td colspan="2">8,805</td><td colspan="2">▲248</td></tr>
<tr><td rowspan="2">海外</td><td>輸出</td><td>4,177</td><td rowspan="2">6,890</td><td>3,834</td><td rowspan="2">6,383</td><td>▲343</td><td rowspan="2">▲507</td></tr>
<tr><td>海外事業</td><td>2,713</td><td>2,549</td><td>▲164</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他（原材料・資機材・調整額他）</td><td colspan="2">1,621</td><td colspan="2">1,522</td><td colspan="2">▲99</td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td colspan="2">17,564</td><td colspan="2">16,710</td><td colspan="2">▲854</td></tr>
</table>

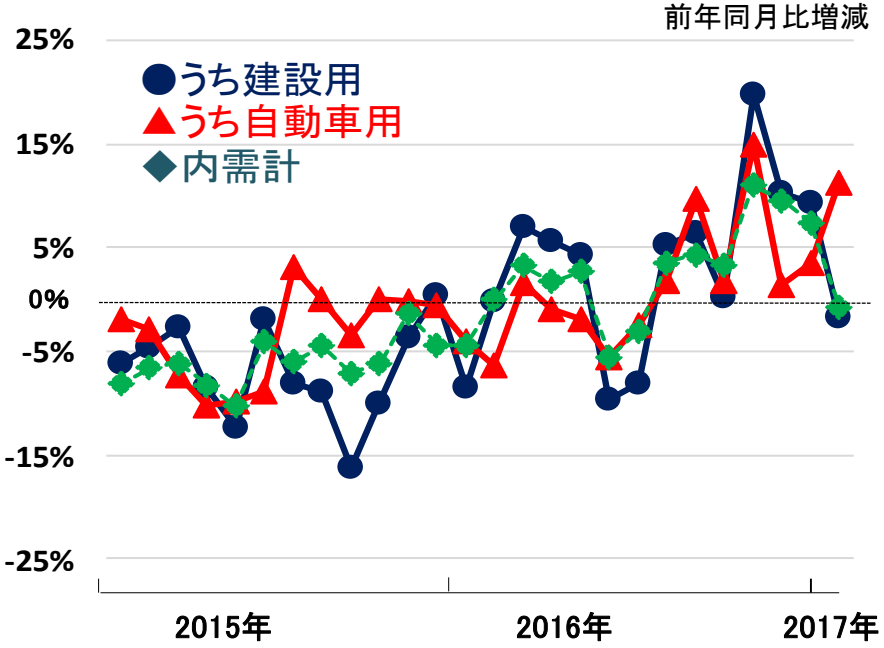
2.JFEグループ2017年度業績見通し

足下の事業環境

足下の事業環境認識（国内）

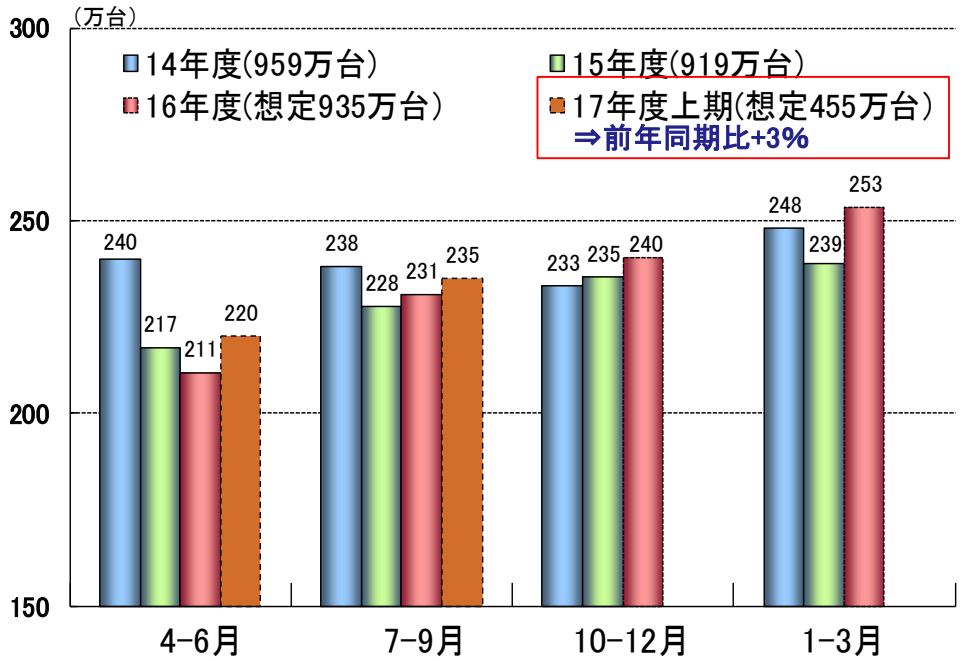
- 国内鋼材需要は、足下では都市再開発案件や五輪関連施設整備を中心に建設活動が底堅く推移しており、製造業分野でも自動車生産等が堅調に推移
- 2017年2月の普通鋼鋼材受注は、建設向けで▲1.7%となったが、製造業向けは自動車向けが＋11.2%など、8か月連続での増加となる＋1.6%となった

【普通鋼鋼材受注推移】



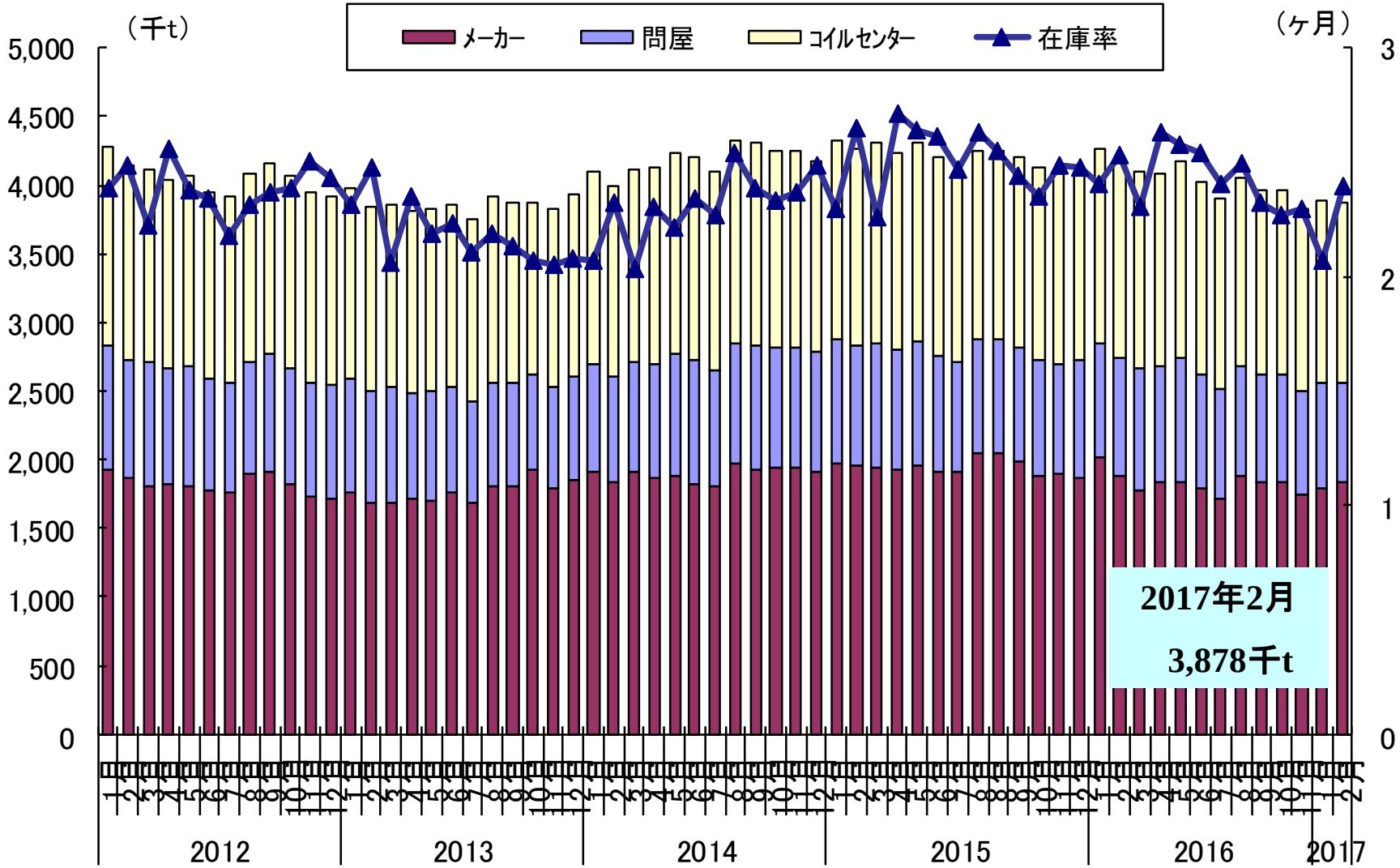
出典：日本鉄鋼連盟

【自動車生産台数見通し】

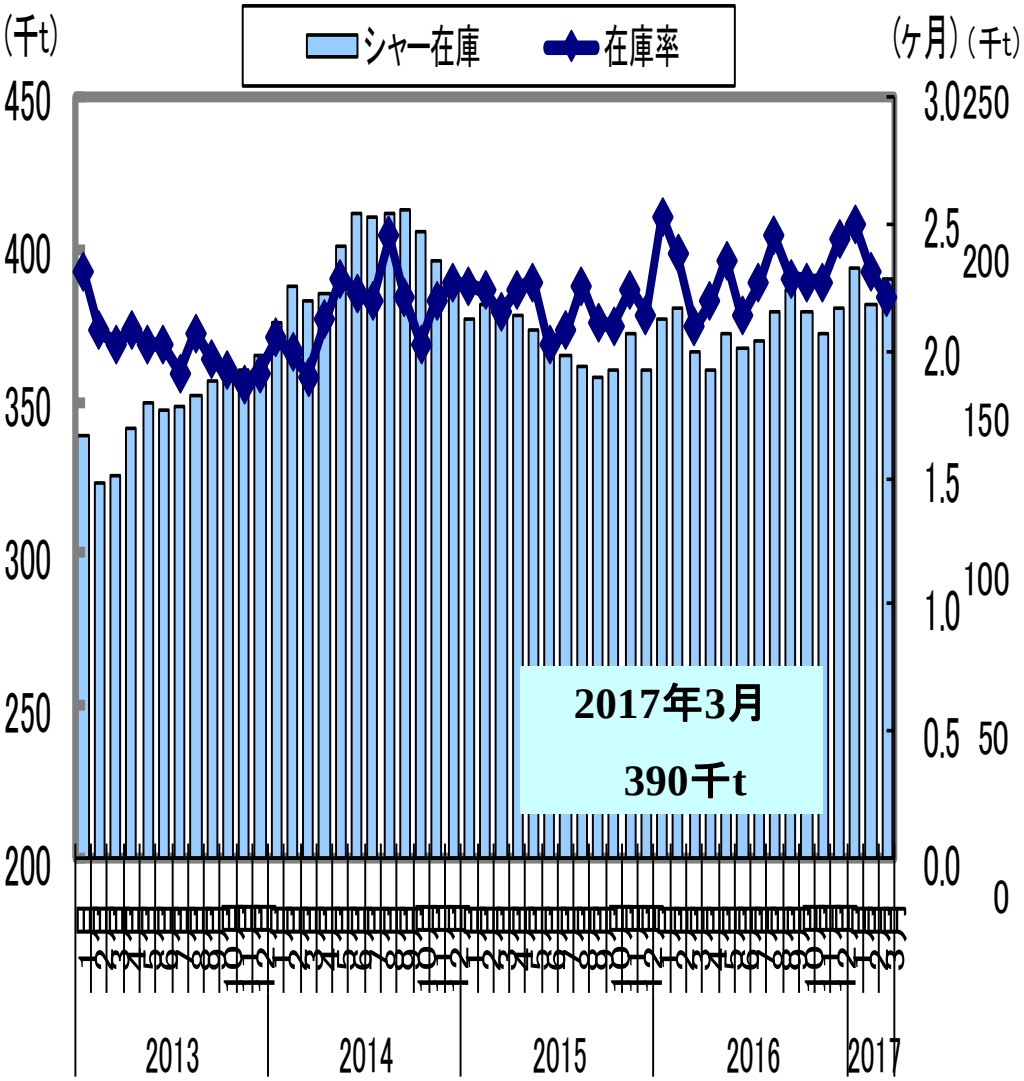


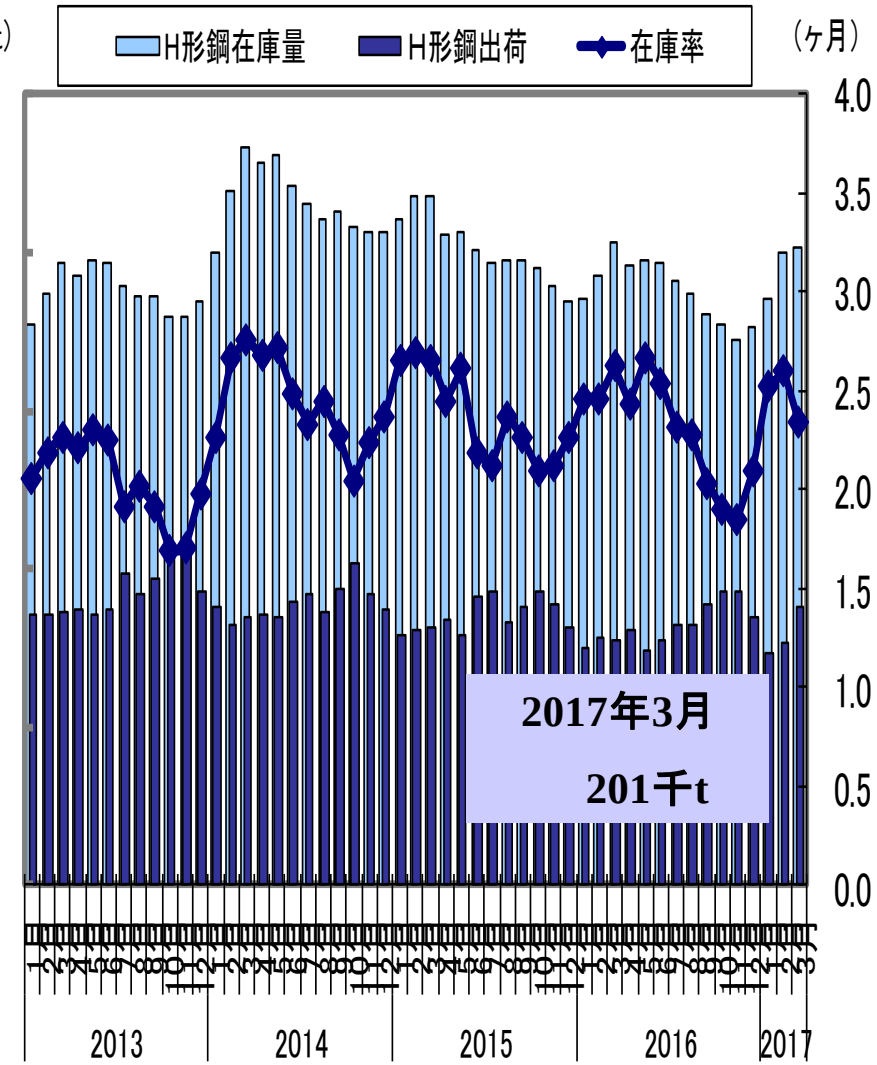
JFE予想

国内販売環境　薄板３品在庫



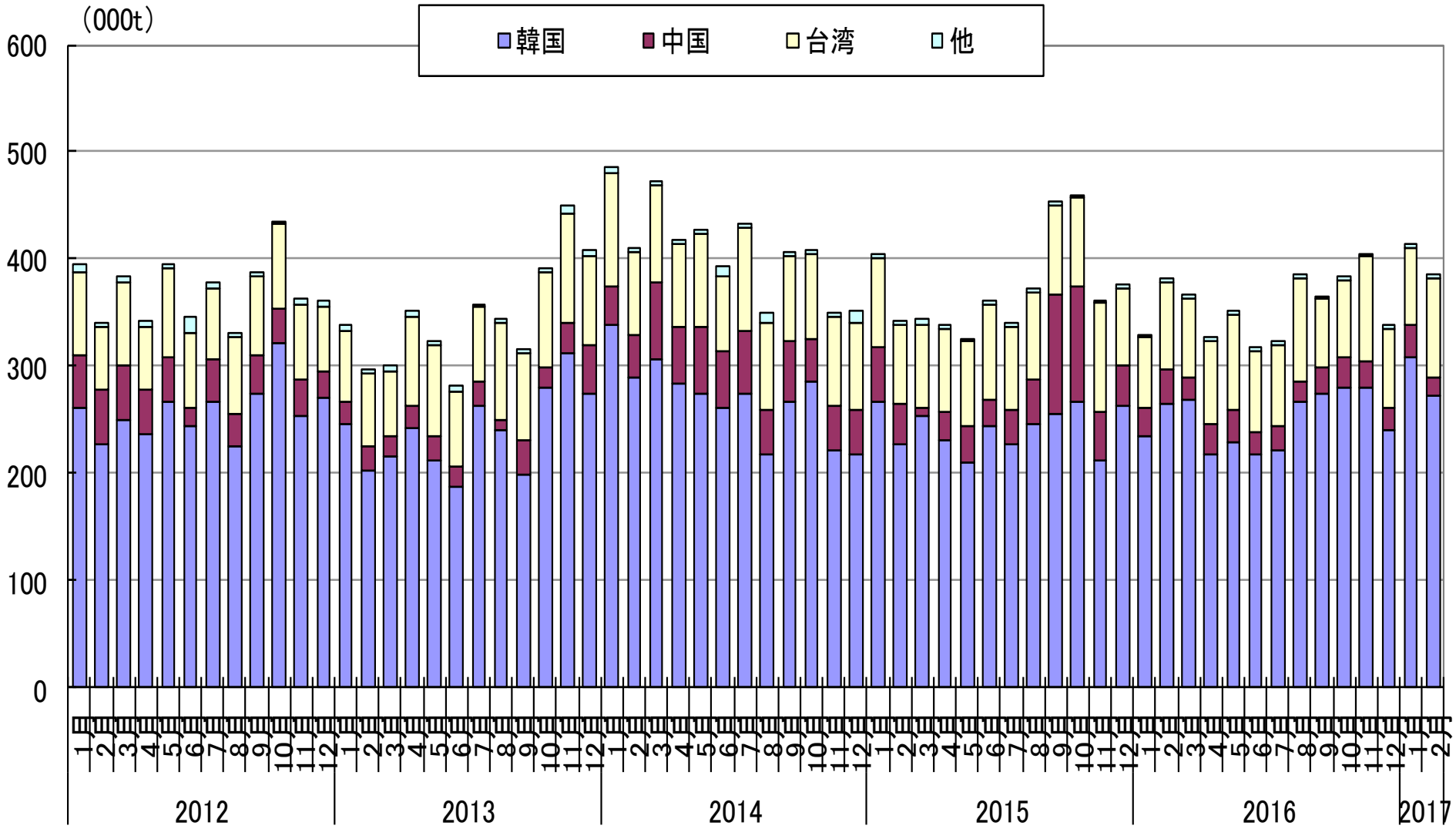
国内販売環境　厚板シャー・H形鋼在庫





国内販売環境

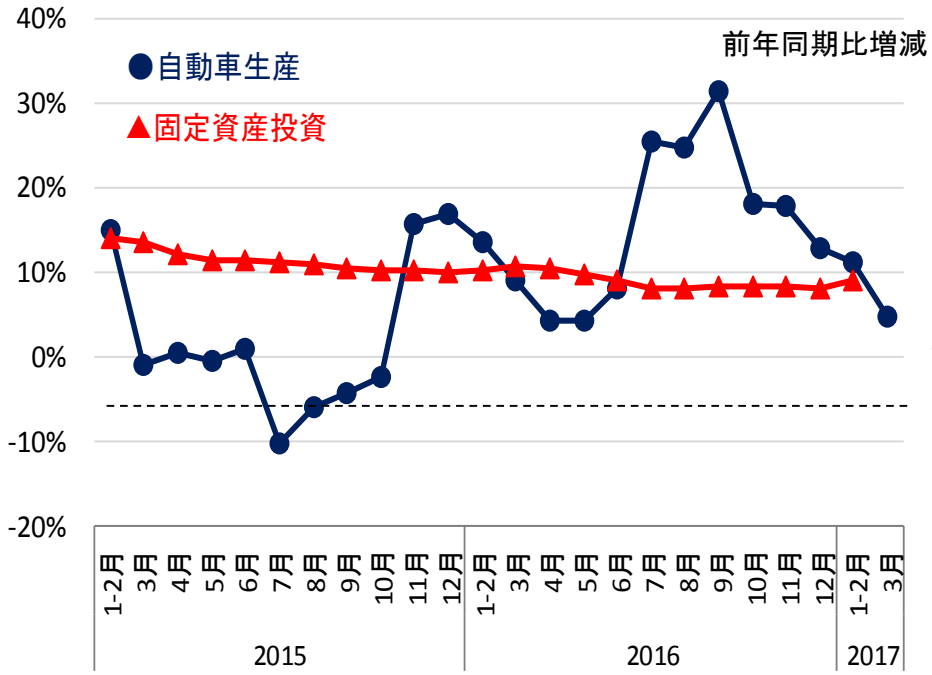
輸入鋼材（普通鋼/国別）



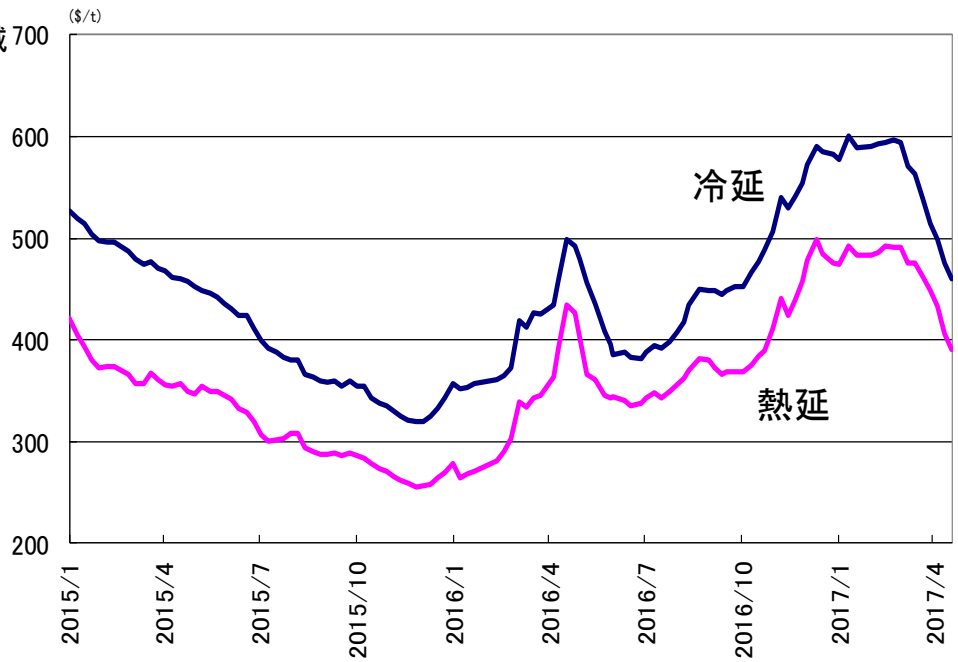
足下の事業環境認識（海外）

- 中国鋼材市況は足下は軟化も、1-3月の固定資産投資が前年同期比＋9.2%、自動車生産が＋9.0%となり、政府による景気下支えもあり、内需は昨年に引き続き堅調に推移
- 中国政府公表の粗鋼能力削減は16年実績が6,500万ﾄﾝ、17年目標を5,000万ﾄﾝとしている

【中国自動車生産・固定資産投資推移】



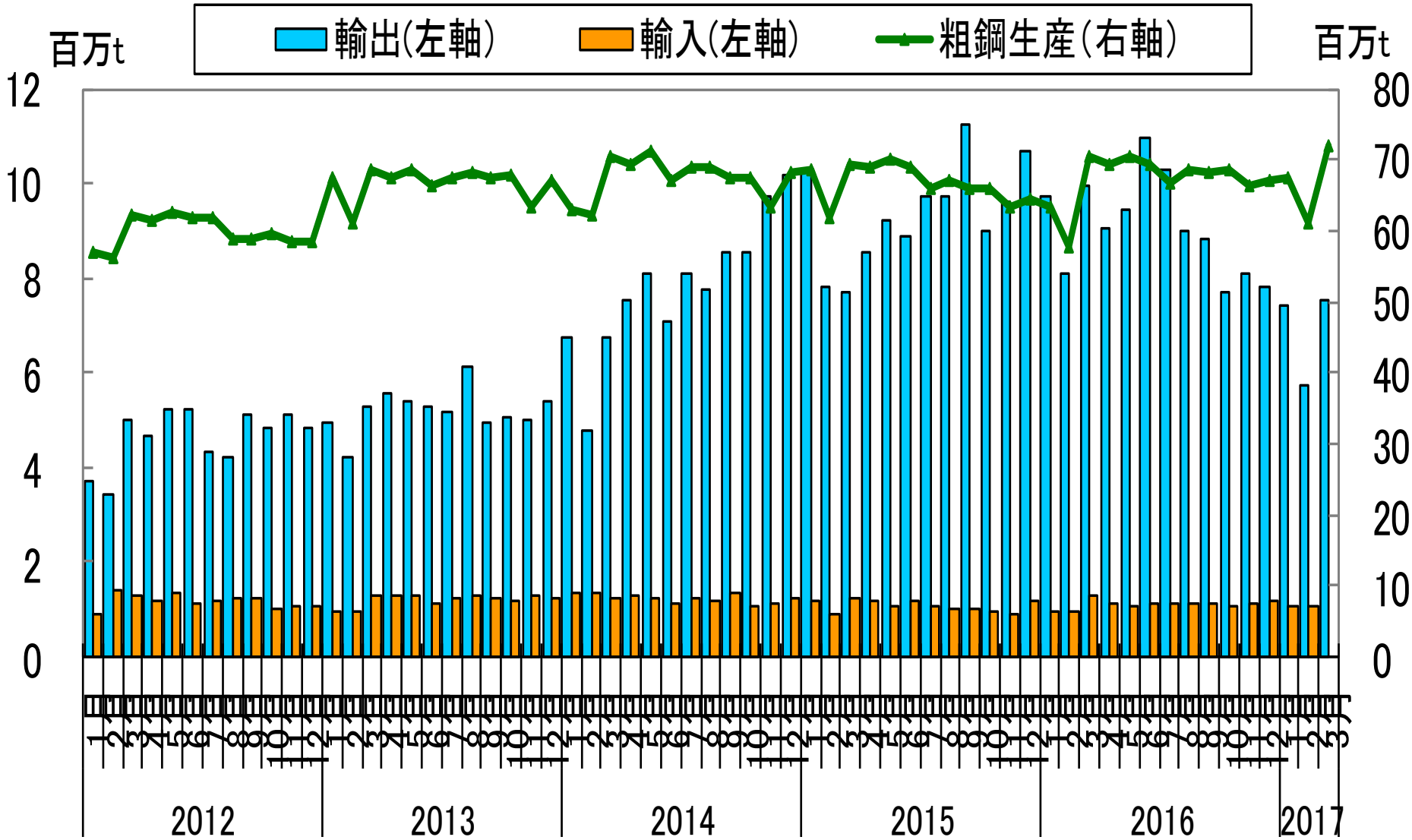
【中国薄板市況推移】



出典：中国国家統計局

中国21都市平均価格

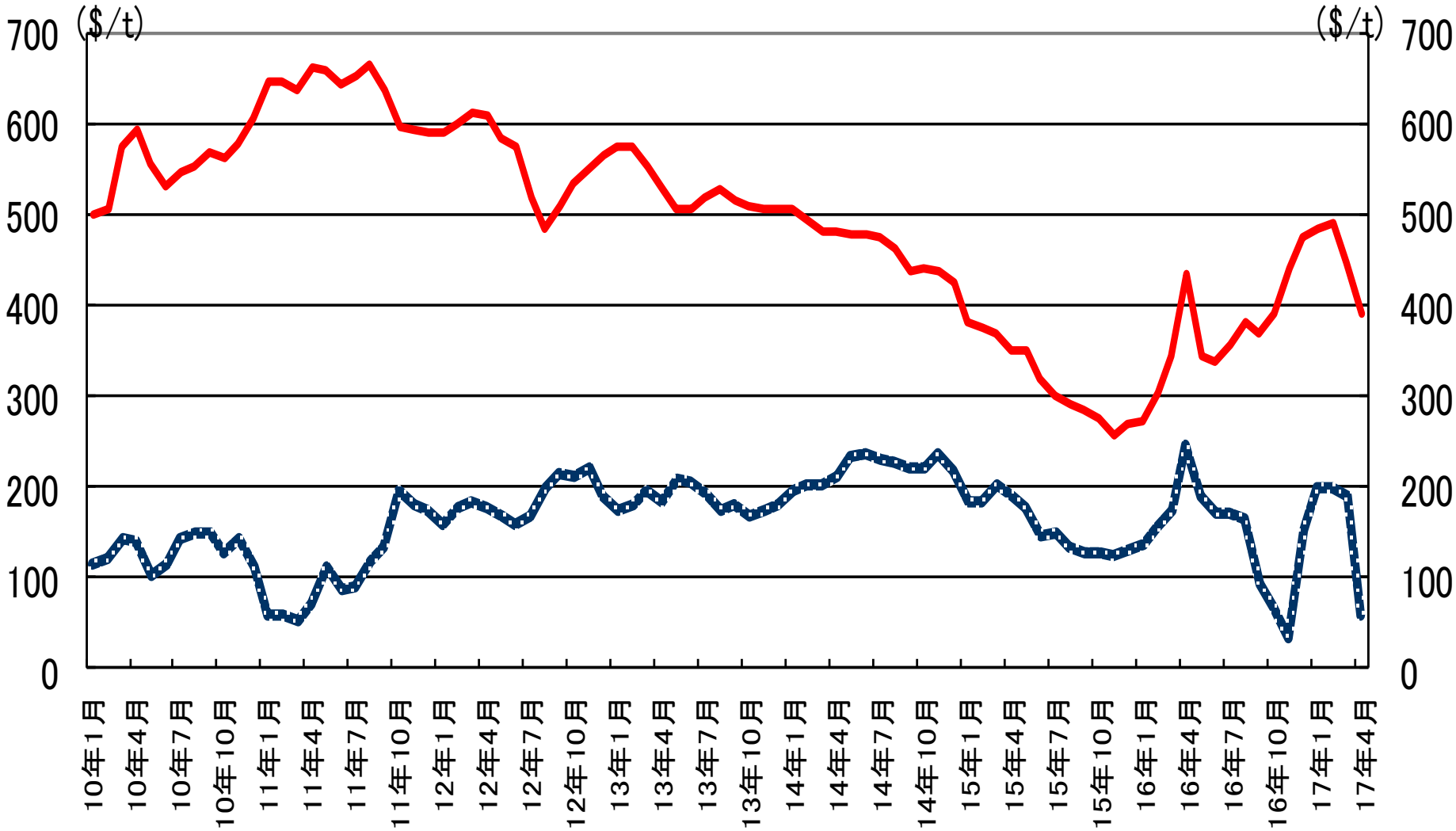
海外販売環境　中国粗鋼生産・輸出入



※1,2月粗鋼生産量はWSA推定

海外販売環境

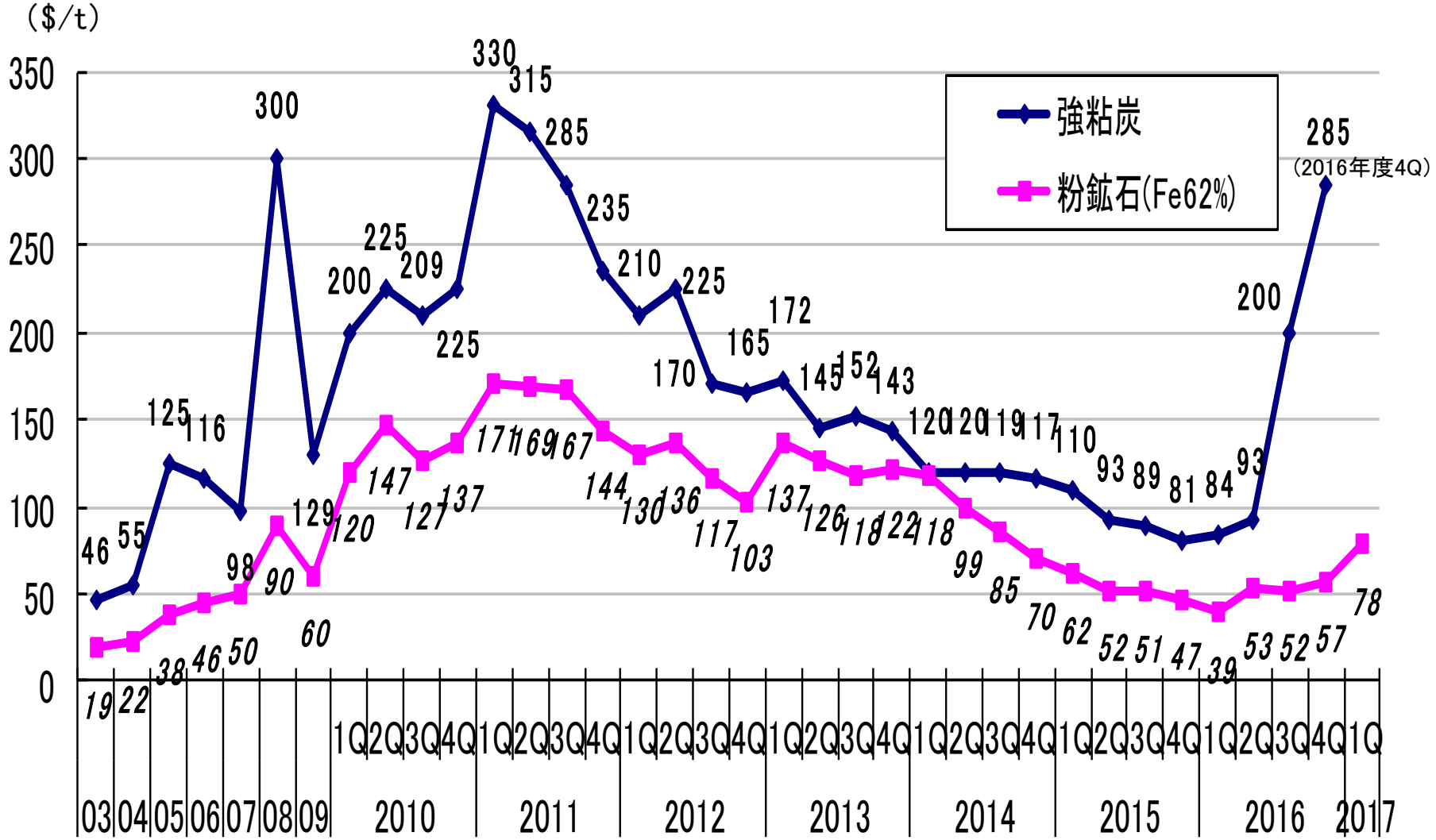
（中国スポットベース）メタルスプレッド



メタルスプレッド＝熱延価格－主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、超良質強粘炭国際ｽﾎﾟｯﾄ市況ベース

原料 主原料価格



契約価格

2017年度業績見通し

2017年度業績見通し

豪州におけるサイクロンの影響により、原料炭市況が急激に高騰し、足下の原料炭価格が未決定であることや、鋼材価格についても今後の動向が不透明であることから、現時点では合理的な業績予想の算定が出来ないため、2017年度の連結業績見通しは未定としております。

業績予想の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

第1四半期の決算発表時に改めて状況の説明をいたします。

2017年度業績改善へ向けた取り組み

【対2016年度の主な業績改善項目（鉄鋼事業）】

■ 販売価格：　改善に向けた取り組みを継続

■ コスト削減：　年間450億円を計画
（５次中計目標：３ヶ年累計1,100億円達成の見込み）

■ 数量増：　粗鋼生産量（JFEスチール単独）
年間2,900万トン程度の見込み

3.第５次中期経営計画の取り組み状況

国内製造基盤整備の推進状況

国内設備投資6,500億円の計画は、16年度までに70%以上を意思決定し推進中

＜主な設備投資案件の進捗＞

5次中期

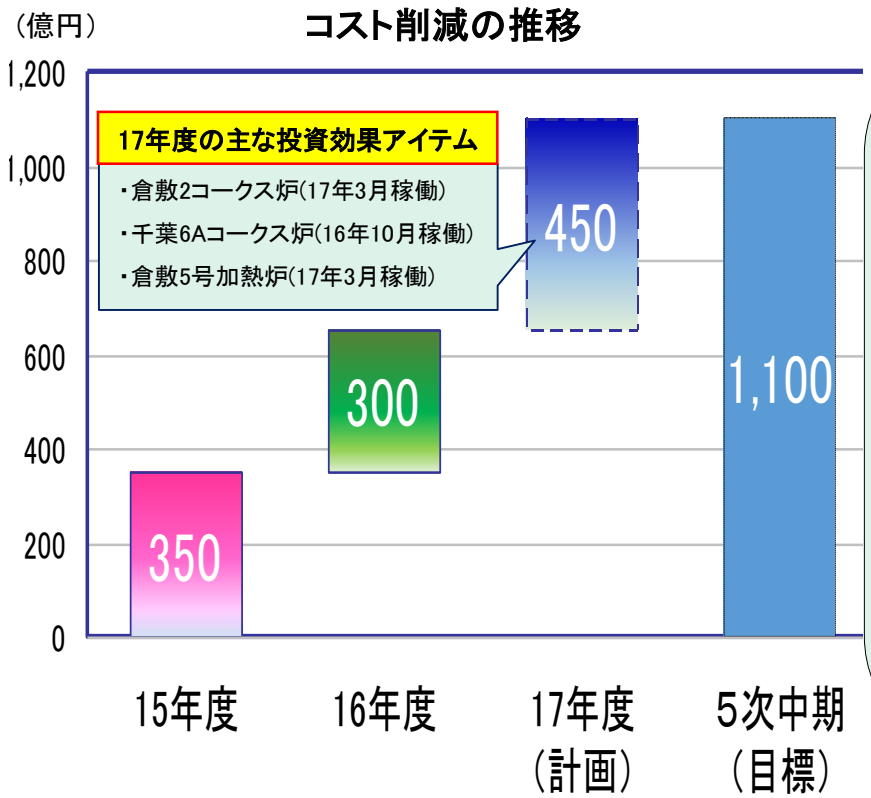
工程	地区	設備	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
上工程	倉敷	第3コークス炉	2016年1月稼働					
	倉敷	第2コークス炉		2017年3月稼働		西日本でコークス自給体制化		
	千葉	第6コークス炉A団		2016年10月稼働				
	千葉	第6コークス炉B団		18年度上期（稼働予定）			東日本でコークス自給体制化	
	福山	第3焼結機			19年度中（稼働予定）			
熱延	倉敷	5号加熱炉			2017年3月稼働	新設による熱延生産能力増強 40万トン/月⇒50万トン/月		
エネルギー	千葉	西発電所4号機	2015年7月稼働					
	京浜	扇島火力発電所1号機		19年度下期（稼働予定）				
システム	製鉄所基幹システム（第Ⅰ期）			18年度下期（完成予定）				

上記に加え、重点的な設備補修を継続的に実施中

稼働済　今後稼働予定

コスト削減の進捗状況

3カ年累計コスト削減1,100億円は、投資効果の回収を中心に計画通り実現予定



主な投資効果

コークス炉更新

- ➢コークス自給率向上
- ➢副生ガスの回収量向上によるエネルギーコスト削減

倉敷5号加熱炉新設

- ➢熱延生産能力増強（40万ﾄﾝ/月⇒50万ﾄﾝ/月）
- ➢能力増強によるプロダクトミックスの向上
- ➢エネルギー効率改善（従来比＋10～20%）

発電所更新

- ➢高効率発電による省エネ推進

【焼結機増設について−福山第3焼結機−】 2019年度中稼働予定 （2017年3月30日公表）

◆ 焼結生産能力増強（従来比3割強）によるコスト削減
- ➢外部購入ペレットの駆逐
- ➢焼結鉱使用拡大による高炉の安定操業を通じた、コークス使用量削減

グループ内組織再編の取組み

グループ内組織の再編を通じた体制強化の推進

【主な取り組み】

■設備保全事業の統合：JFEプラントエンジ（2016年4月設立）

設備保全の機械系分野を担うJFEメカニカルと、電気・制御系分野を担うJFE電制を統合

⇒グループの設備保全と更新を担う中核会社として、総合力・競争力を強化

■棒線事業の統合：2017年4月

JFEスチール棒線事業とJFE条鋼仙台事業所を統合し、JFEスチール棒線事業部へ。

⇒製造から販売までの部門を完全一体化。より効率的、競争力のある体制へ

■小径電縫管事業の統合：JFE溶接鋼管（2017年10月目途設立）

JFEスチール知多製造所の小径電縫管事業、川崎鋼管、JFE鋼管を統合

⇒各社の商品・サービスを活用し、グループとして生産・販売体制強化を図る

海外事業投資の推進状況

自動車を中心とした重点分野の強化、及び中長期的視点に立った成長投資

重点分野	アジア			NAFTA	MENA
	中国	東南アジア	西南アジア		
自動車 グローバル調達対応徹底	・GJSS（CGL） ・JJP（自動車用鋼管） ・BJCMX（鉄粉）	・JSGT（タイCGL） ・JSGI（インドネシアCGL）	・JSW（インド）	・NJSM（メキシコCGL） ・AK Steel（米国）	2019年稼働予定 2018年稼働予定
エネルギー 需要地にて事業展開	・BHNK	・JFE-TC（シンガポール） 宝武鋼鉄集団との合弁 2018年稼働予定		・CSI（米国） ・Benoit（米国）	・AL GHARBIA（UAE ラインパイプ）
インフラ・建材 アジアにターゲット絞り事業展開		ベトナム ・J-Spiral（鋼管杭、鋼管矢板） ・A&J（建材加工） ・GECOSS VN（建材仮設リース）	有力企業AGRIMECO社との合弁 2017年2月設立		・Kandil（エジプト 冷延、CGL）
海外鉄源 JFEブランド4000への一歩		・Formosa Ha Tinh Steel (FHS)			

5次中期の重点地域

JFEスチール

ベトナムにおけるインフラ建材サプライチェーンの構築
～拡大するASEAN鋼材需要の捕捉～

ASEAN最大の鋼材消費国ベトナムから、インフラ・建材分野を主軸に、さらなる拡大が見込まれるASEAN全体の鋼材需要を捕捉していく。

（括弧内数値はJFEグループ出資比率）

鉄源

■FHS（5%）

・粗鋼生産700万ﾄﾝ/年（第1期）のベトナム初の大規模一貫製鉄所

スラブ、ビレット、熱延コイル、棒鋼・線材の製造

・ベトナム・東南アジア向けを中心とした「JFEブランド」鋼材の供給拠点に

リローラー

■J-Spiral（35%）

・高品質ｽﾊﾟｲﾗﾙ鋼管の製造、販売によるインフラ・建材需要の捕捉

■SUNSCO（8%）

・亜鉛鍍金鋼板、鋼管の製造・販売によるインフラ・建材需要の捕捉

加工・工事

サプライチェーンの川下まで含めたアプローチ

■GECOSS VN（100%）

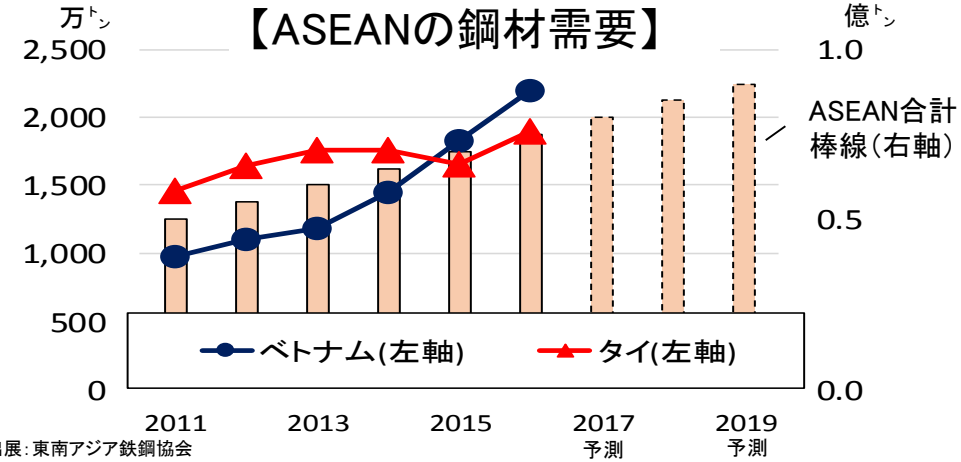
・インフラ整備向け等の建設仮設材の設計、販売リース、加工

■A&J（50%）

・合弁ベトナム有力企業の販売力を活用し、建材加工商品の仕入、販売

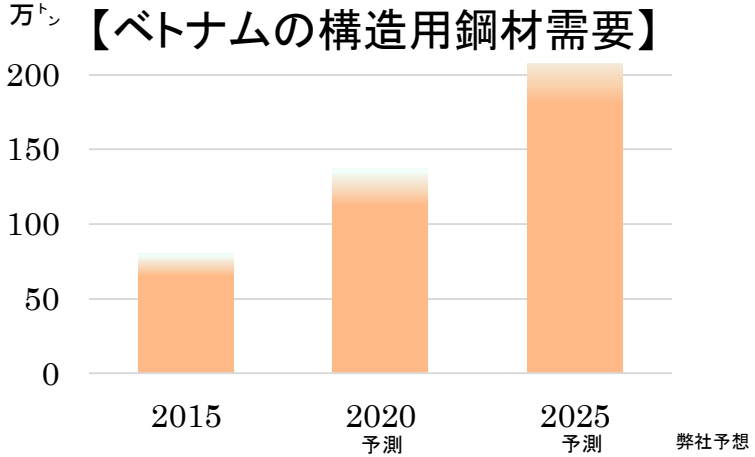
JFE商事をはじめとしたJFEグループのシナジー効果により、JFEブランドの拡充を図る

【ASEANの鋼材需要】



出展：東南アジア鉄鋼協会

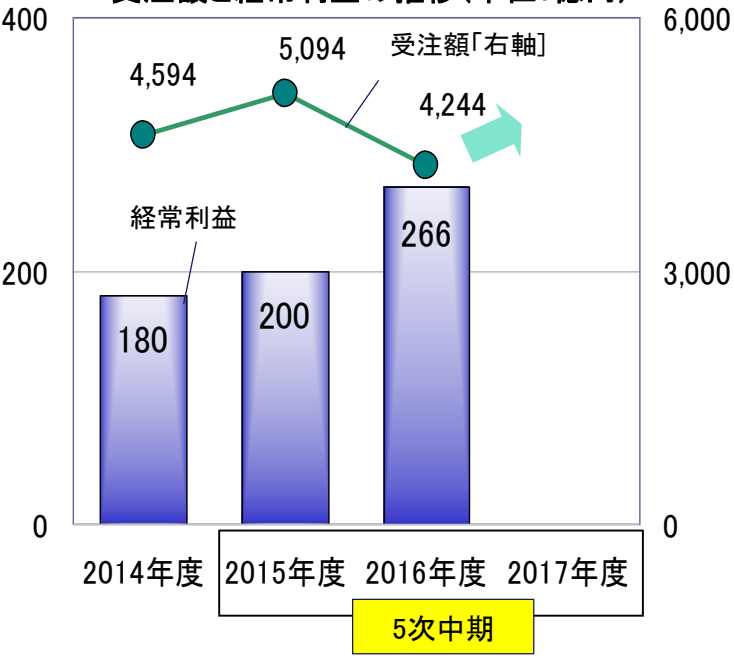
【ベトナムの構造用鋼材需要】



弊社予想

エンジニアリング事業の収益拡大に向けた取り組み

受注額と経常利益の推移（単位：億円）



＜15年度・16年度の主な受注実績＞

分野	受注額（億円）	主な受注実績
環境	3,654	ごみ焼却施設(14件) 上下水道設備、民営化事業受託
エネルギー	3,084	発電プラント （太陽光25件、バイオマス5件、地熱1件） LNG基地関連施設、パイプライン整備
社会インフラ他	2,599	国内橋梁建設(新築39件、改築22件) 船舶用バラスト水管理システム（422隻分）
計	9,338	

■5次中期計画のねらい・これまでの主な取り組み

◆ **環境分野**：ごみ焼却施設、上・下水処理プラント 等

- ➢老朽化により見込まれるプラント更新需要の捕捉
- ➢民間委託拡大に伴う運営維持管理事業への対応

◆ **エネルギー分野**：発電プラント、ガスパイプラン・LNG基地 等

- ➢再生可能エネルギーの普及や電力・ガス小売自由化に伴うプラント建設需要の捕捉

◆ **社会インフラ分野他**：鋼構造物、産業機械 等

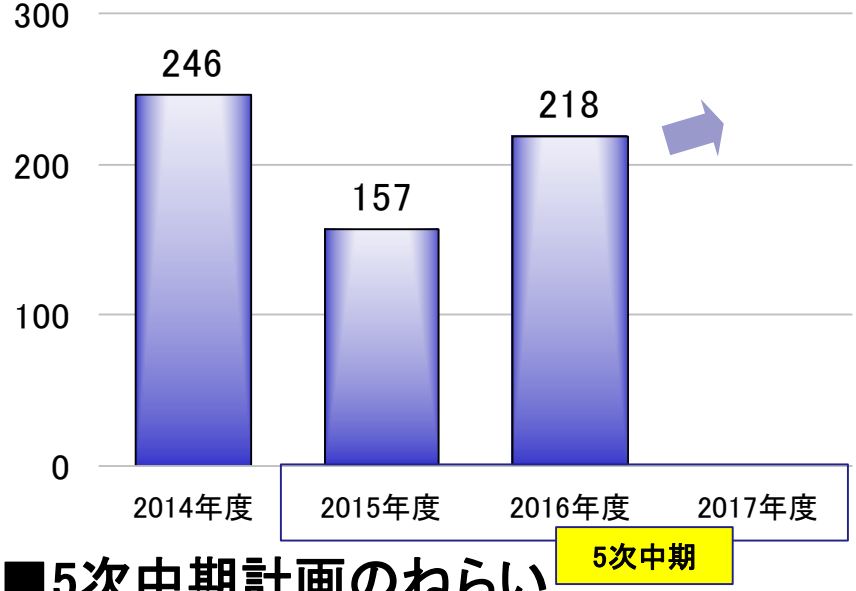
- ➢国内における橋梁更新需要の捕捉
- ➢拡大が見込まれる新興国のインフラ建設需要の捕捉

■収益拡大・安定化に向けた今後の取り組み

- ➢ **海外事業のさらなる拡大**
- ➢ **提案から運営までの一貫ビジネスの拡大**
- ➢ **新商品のさらなる市場投入**
- ➢ **適切な事業リスク管理**

商社事業の収益拡大に向けた取り組み

経常利益の推移（単位：億円）



◆ 経常利益の推移（概況）
16年度は海外グループ会社(Kelly Pipe、海外コイルセンター等）の収益改善等により、収益は回復基調

◆ さらなる収益拡大に向けた取り組み
- 国内外における取扱数量の拡大
- 海外を中心とした事業収益の拡大

■5次中期計画のねらい

【国内】ｸﾞﾙｰﾌﾟの機能強化と効率性の追求

【海外】成長地域での需要の確実な捕捉

■2016年度の主な取り組み

【国内】

◆JFE グループ 電磁鋼板の加工・流通体制強化
- 国内外における電磁鋼板マーケットでのSCM強化

◆近江産業（ｺｲﾙｾﾝﾀｰ）への出資
- 国内の加工ネットワークの最適化・収益力の向上

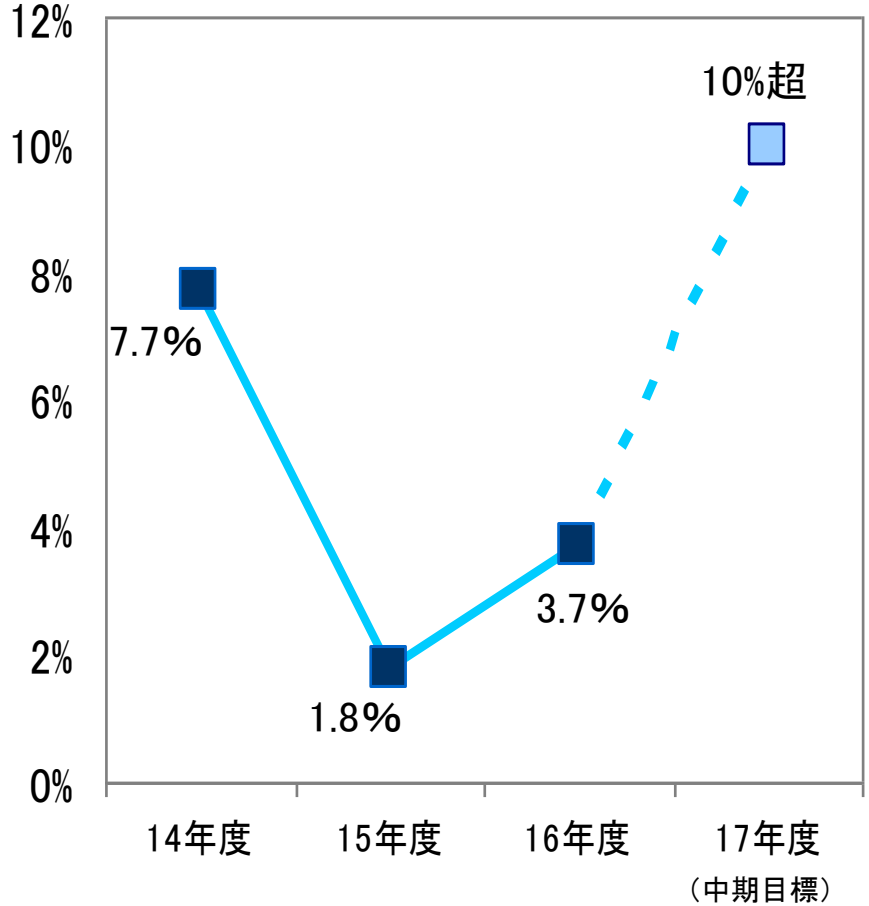
【海外】

◆インドネシア 伸線加工会社(MPF社)への出資
- 拡大が見込まれるｲﾝﾄﾞﾈｼｱ自動車需要を捕捉

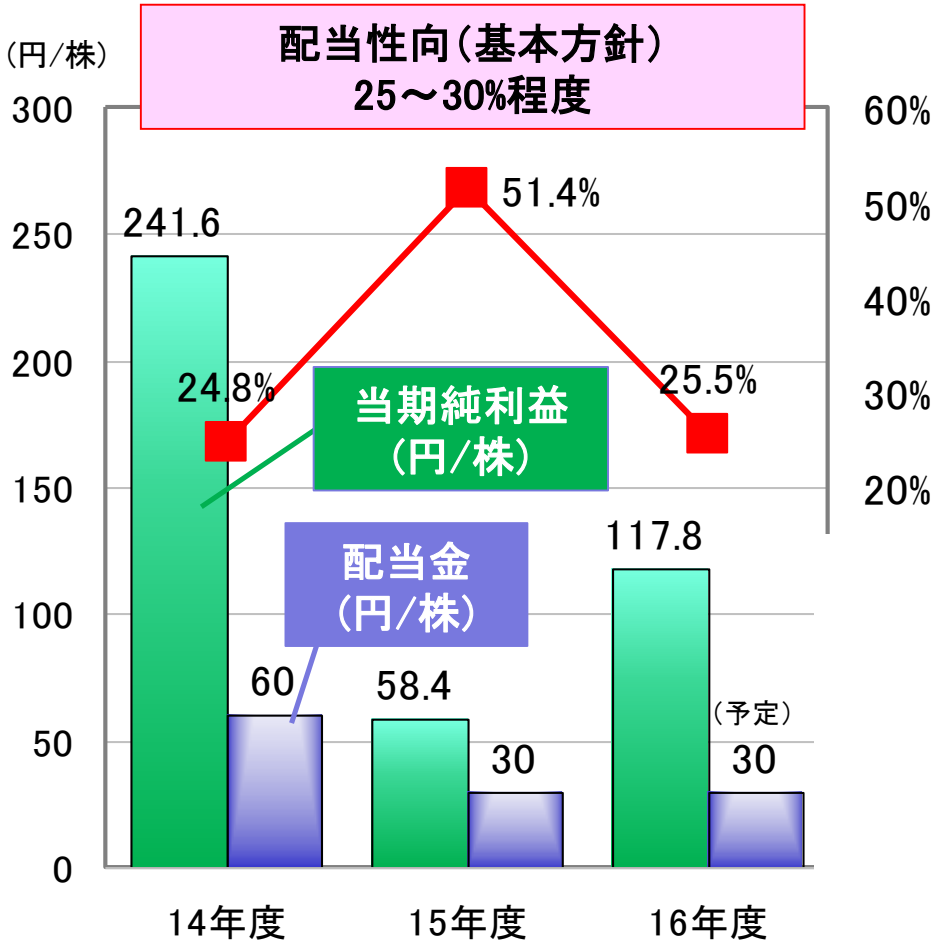
◆ベトナム 鋼板製造メーカー(TDA社)への出資
- 更なる成長が期待される建材・家電分野需要を捕捉

主要指標（ROE、配当）

ROE

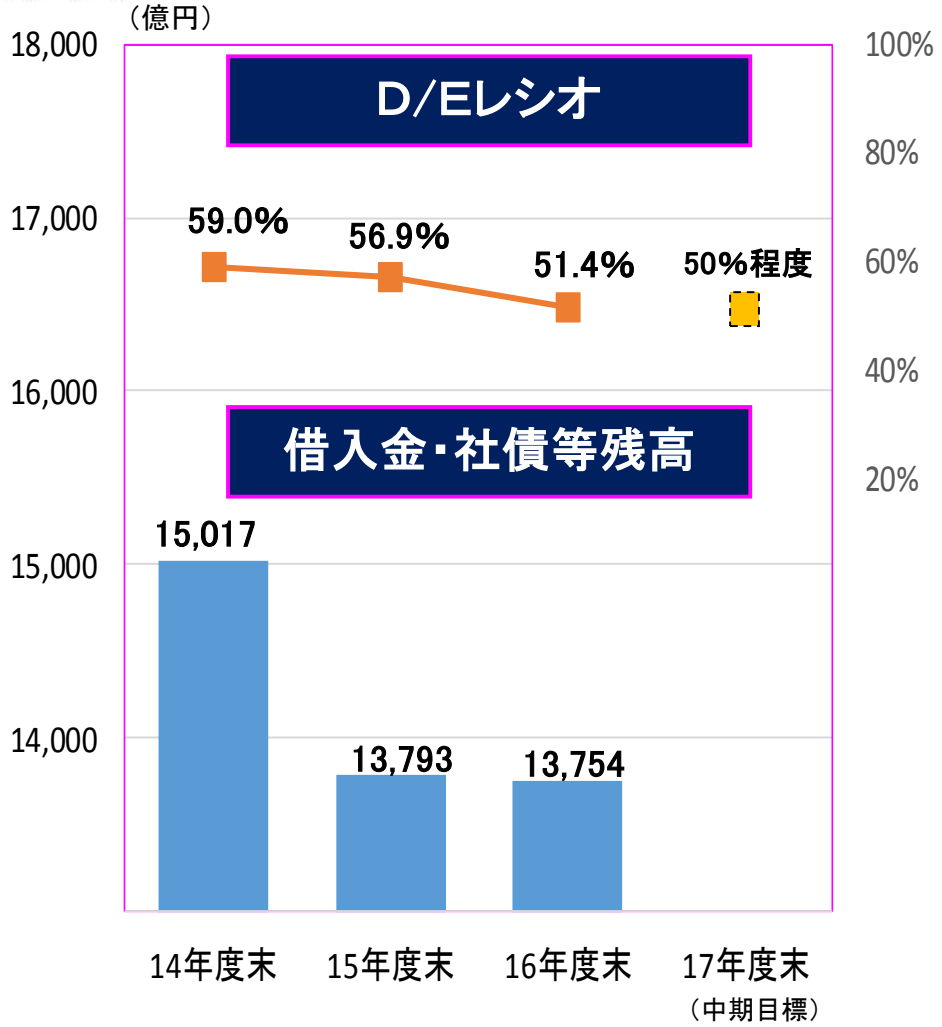


配当



ROE：当期純利益/期中平均自己資本

主要指標（借入金・社債等残高、D/Eレシオ）



D/Eレシオ：借入金・社債等残高/自己資本

格付け評価上の資本性を併せ持つ負債(※)について、格付機関の評価により資本に算入。

※資本性を併せ持つ負債（劣後特約付ローン）

借入実行日	借入金額	資本性評価	資本算入額
	（億円）	（%）	（億円）
2013年3月18日	3,000	75%	2,250
2016年6月30日	2,000	25%	500

参考：2016年度キャッシュフロー（億円）

原資		使途	
当期純利益	679	配当金支払	57
		運転収支他	767
減価償却費	1,826	設備投資・投融資	2,360
資産圧縮	718		
		借入金返済	39
	3,223		3,223

４.配当について

配当について

- 当期の期末配当については、1株につき30円（年間30円）とする案を株主総会にお諮りすることといたしました。
- 次期（2018年3月期）の配当につきましては、今後、業績動向を見極めつつ検討することとしており、未定であります。

５.ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ強化に向けた取り組み

取締役会・監査役会の体制変更について

（6月開催予定の定時株主総会後に変更）

取締役会の実効性評価等における議論を踏まえ、当社取締役会および監査役会の体制を変更

- **社外取締役および社外監査役の増員** ［社外役員+2名］
  - ✓ 監査役会の過半数が独立社外監査役に(5名中3名)
- **エンジニアリング・商社の両事業会社社長も取締役に** ［社内役員+2名］

社外役員比率		
44%（9名中4名） ［社外取締役2名、社外監査役2名］	⇒	**46%（13名中6名）** ［社外取締役3名、社外監査役3名］

より多様なバックグラウンドに基づく意見やアドバイスを
得るとともに、戦略的方向性やビジョンに関する議論の深化

↓

中長期的なグループの企業価値向上

以下、参考資料

主な財務関連データ

年度	'03	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16
【主要財務指標】(億円、%)											
経常利益	2,183	5,029	4,005	692	1,658	529	522	1,736	2,310	642	847
EBITDA ※1	4,323	7,414	6,708	3,371	4,289	3,063	2,606	3,689	4,215	2,544	2,799
ROS ※2	8.8%	14.2%	10.2%	2.4%	5.2%	1.7%	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%
ROE ※3	15.9%	17.5%	13.7%	3.3%	4.1%	−2.6%	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%
ROA ※4	6.5%	13.0%	10.0%	2.2%	4.6%	1.7%	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%
借入金・社債等残高(期末)	18,374	12,819	17,687	14,684	14,964	15,936	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754
D／Eレシオ ※5	246.2%	61.4%	98.9%	75.5%	76.5%	83.5%	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%
【1株当たり情報】(円/株、%)											
親会社株主に帰属する当期純利益	185.8	450.5	355.6	86.3	110.7	−68.7	71.2	177.4	241.6	58.4	117.8
配当金	30	120	90	20	35	20	20	40	60	30	※ 30
配当性向	16.1%	26.6%	25.3%	23.2%	31.6%	−	28.1%	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%

※予定

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費　※2 ROS: 経常利益/売上高
※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本　※4 ROA: (経常利益＋支払利息)/総資産
※5 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本
但し、格付け評価上の資本性を併せ持つ負債※について、格付機関の評価により資本に算入。

※資本性を併せ持つ負債(劣後特約付ローン)

借入実行日	借入金額	資本性評価	資本算入額
	(億円)	(%)	(億円)
2013年3月18日	3,000	75%	2,250
2016年6月30日	2,000	25%	500

2016年度10-12月
⇒2016年度1-3月　連結経常利益　▲111億円内訳

単位：億円

JFEスチール	上期	10-12月	1-3月	下期	2016年度	差異 10-12月→1-3月
経常利益	▲244	380	269	649	405	▲111

- 数量・構成　＋　10
- 販価・原料　＋　50
- コスト削減　＋　20
- 棚卸資産評価差等　▲　100
- その他　▲　91 ⇨ 海外グループ会社、外部配当減、償却・廃却費増　等

合計　▲　111

2016年度上期
⇒2016年度下期　連結経常利益　＋893億円内訳

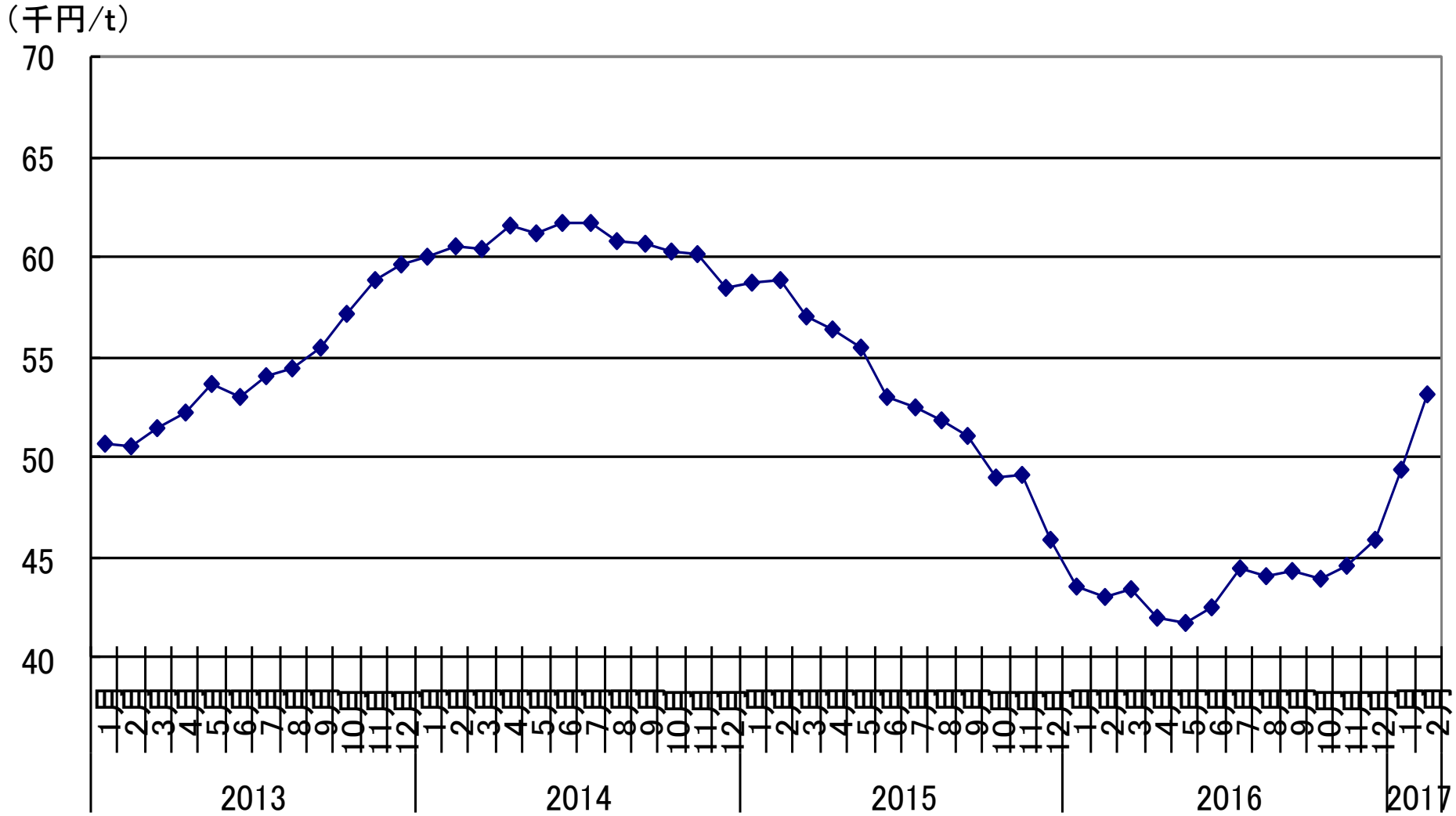
単位：億円

JFEスチール	上期	10-12月	1-3月	下期	2016年度	差異 上期→下期
経常利益	▲244	380	269	649	405	+893

- 数量・構成　＋　70
- 販価・原料　▲　450
- コスト削減　＋　70
- 棚卸資産評価差等　＋1,240
- その他　▲　37 ⇨ 償却費増、外部配当減　等

合計　＋　893

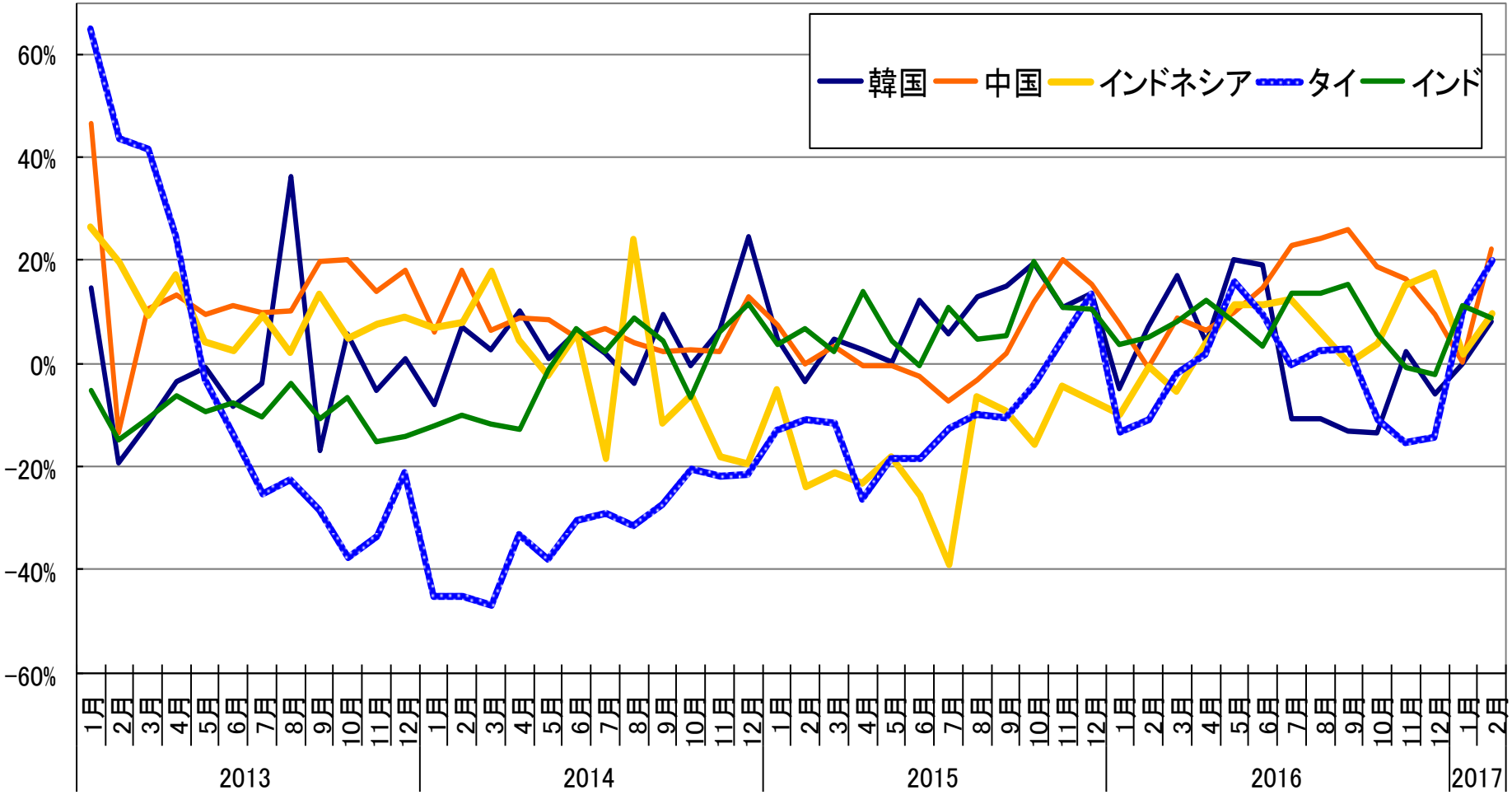
国内販売環境　輸入鋼材価格



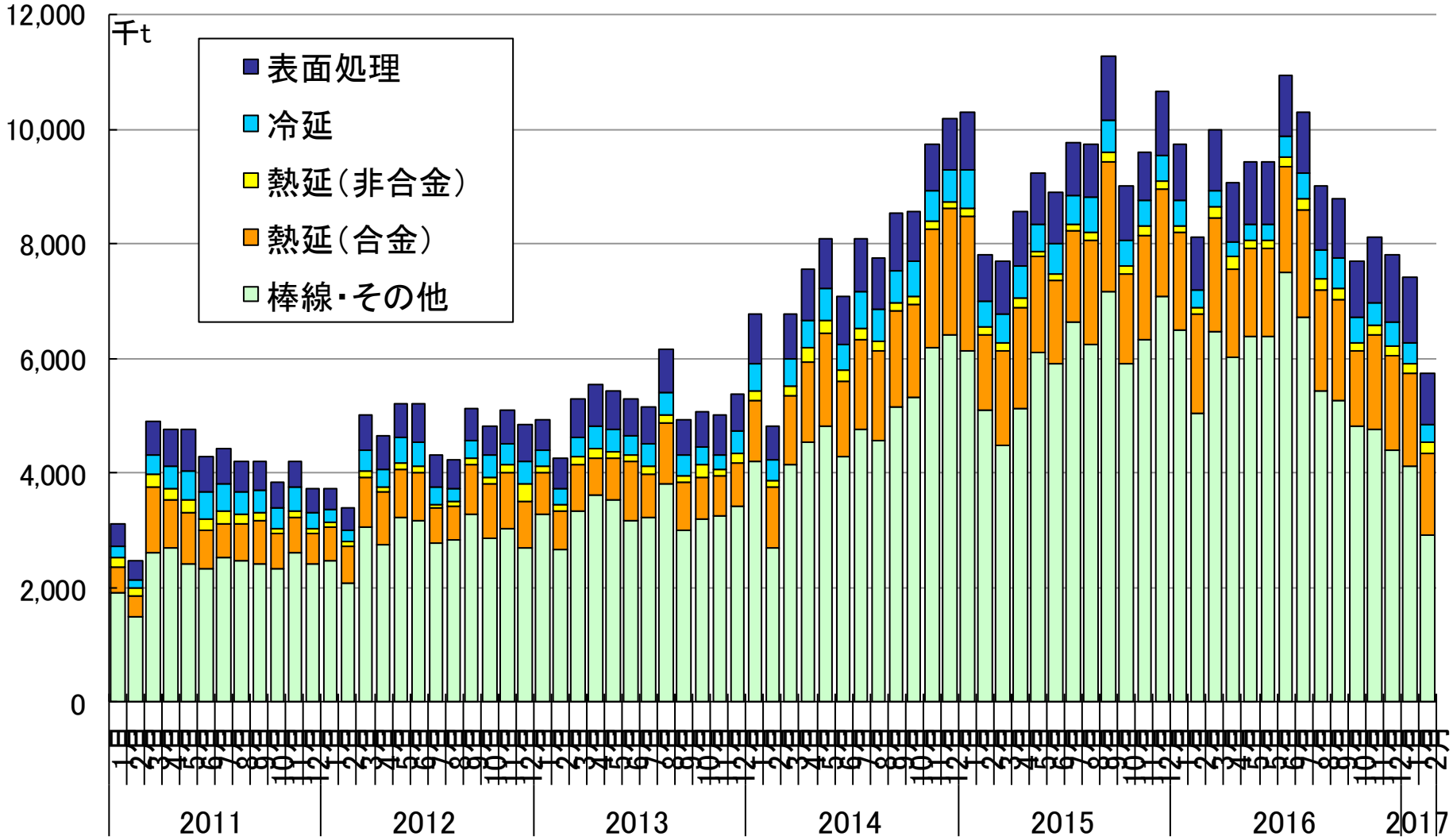
日本鉄鋼連盟ﾃﾞｰﾀより作成（韓国から輸入の熱延広幅帯鋼）

海外販売環境　主要国自動車販売

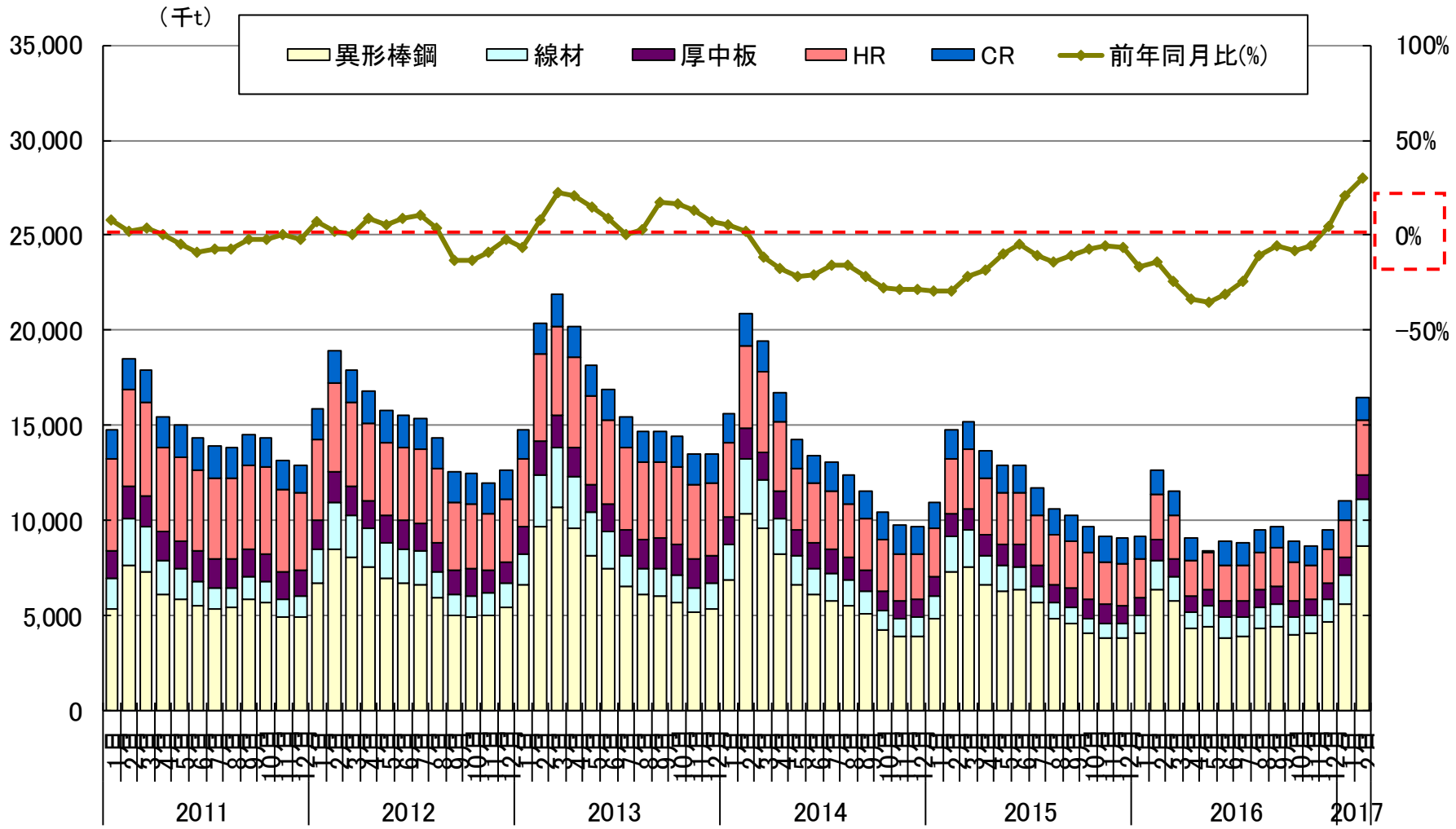
自動車販売台数（対前年同月比）



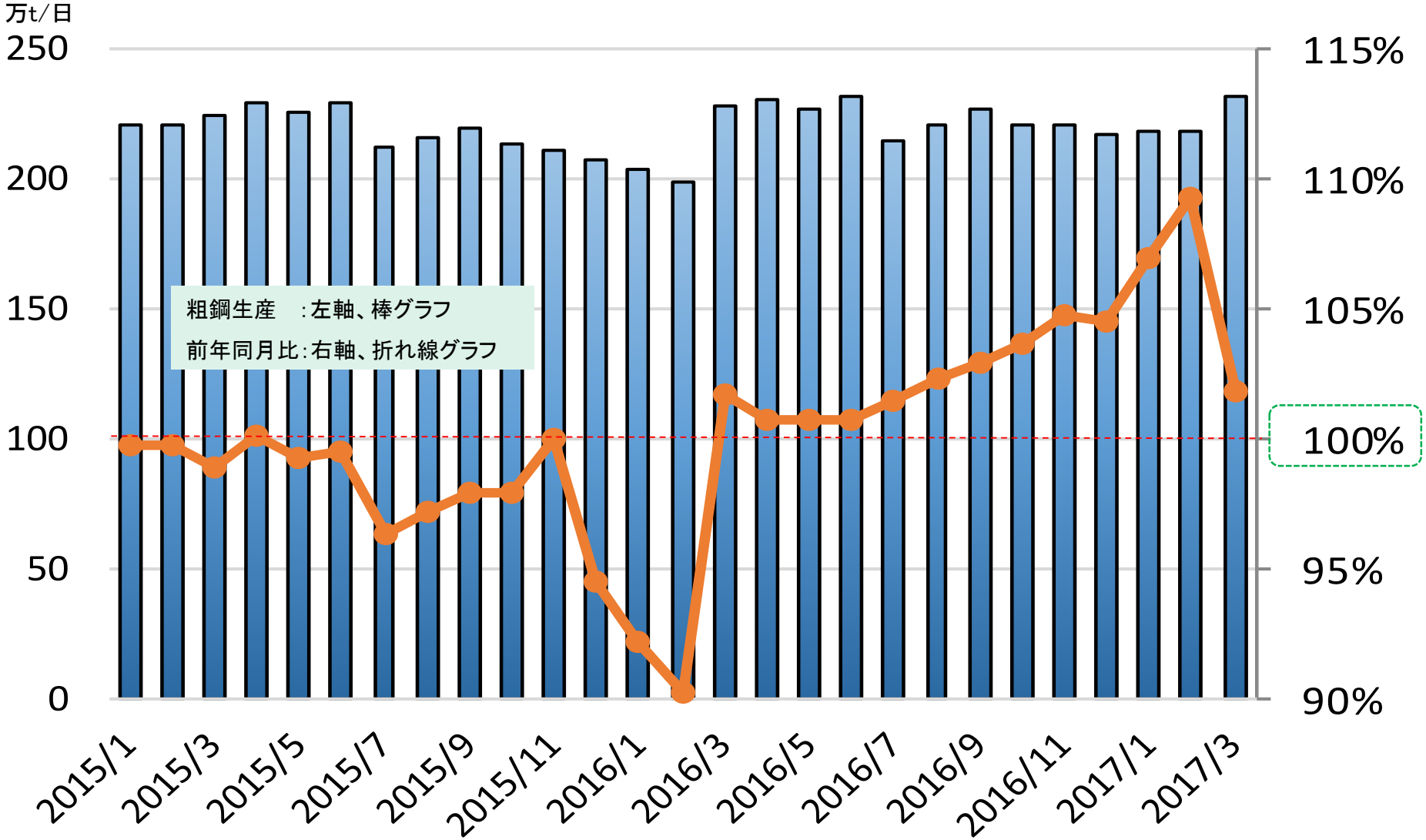
海外販売環境　中国輸出（品種別）



海外販売環境　中国品種別在庫数量



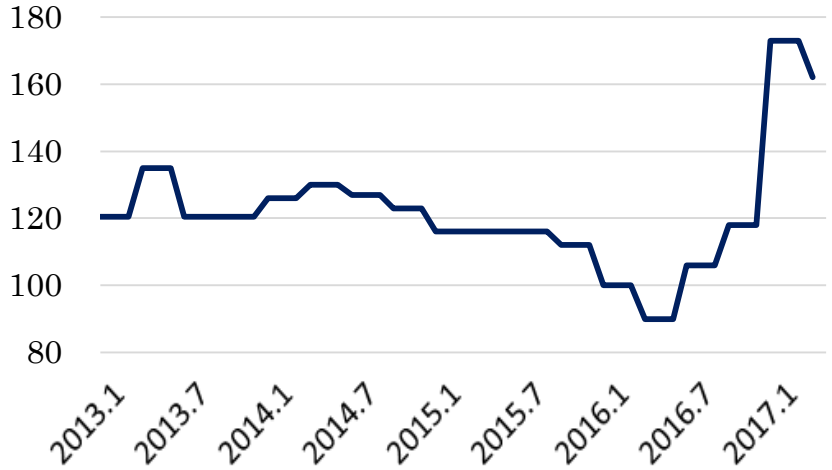
海外販売環境　中国日当たり粗鋼平均生産量



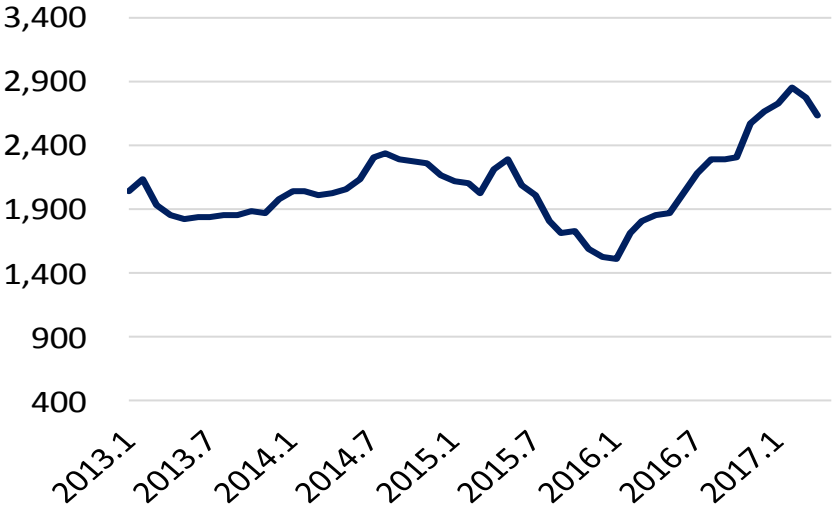
※日当たり粗鋼平均生産量＝月間粗鋼生産量/暦日数　で計算

原料 金属市況推移

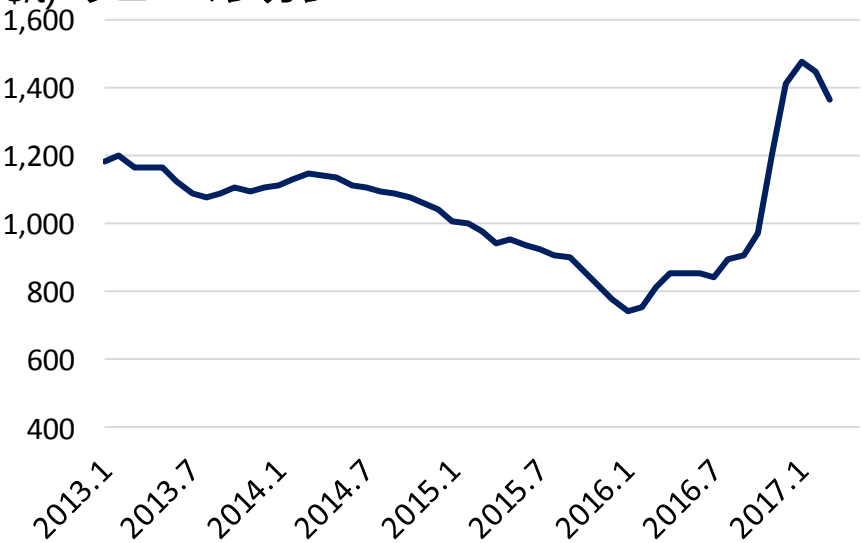
(¢/lb) フェロクロム



(U$/t) 亜鉛



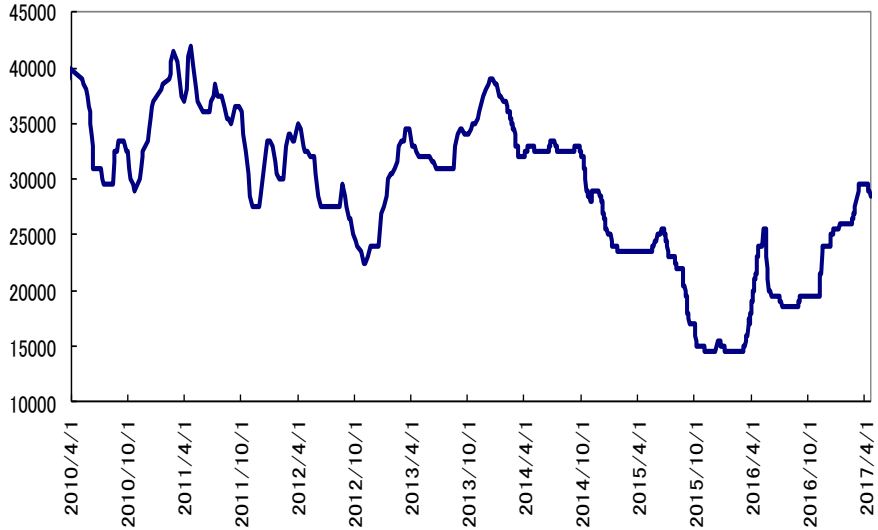
(U$/t) フェロマンガン



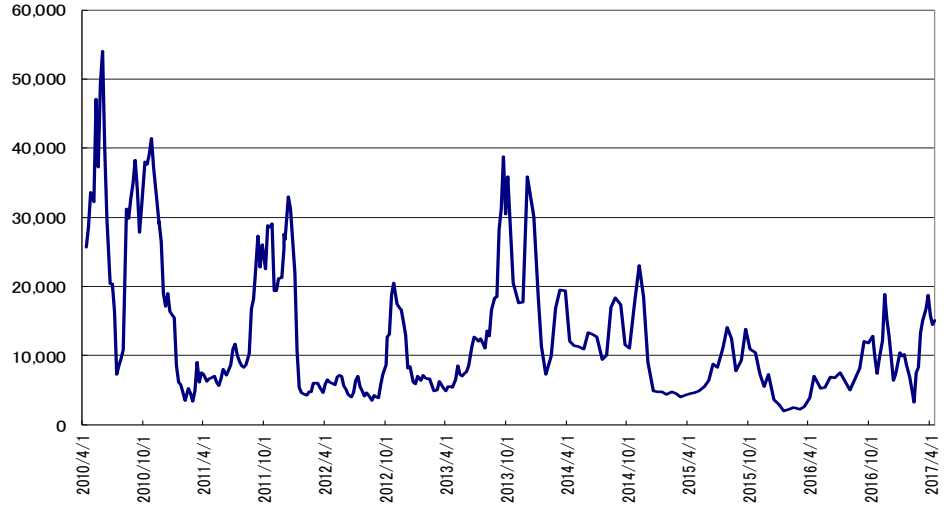
(U$/lb) モリブデン

原料 その他原料市況推移

(円/t)スクラップ市況

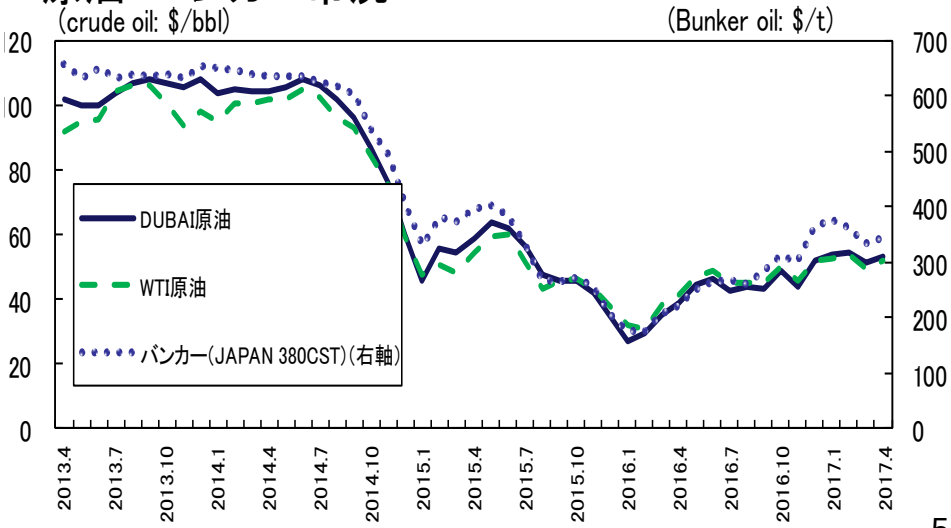


($/B) スポット傭船市況

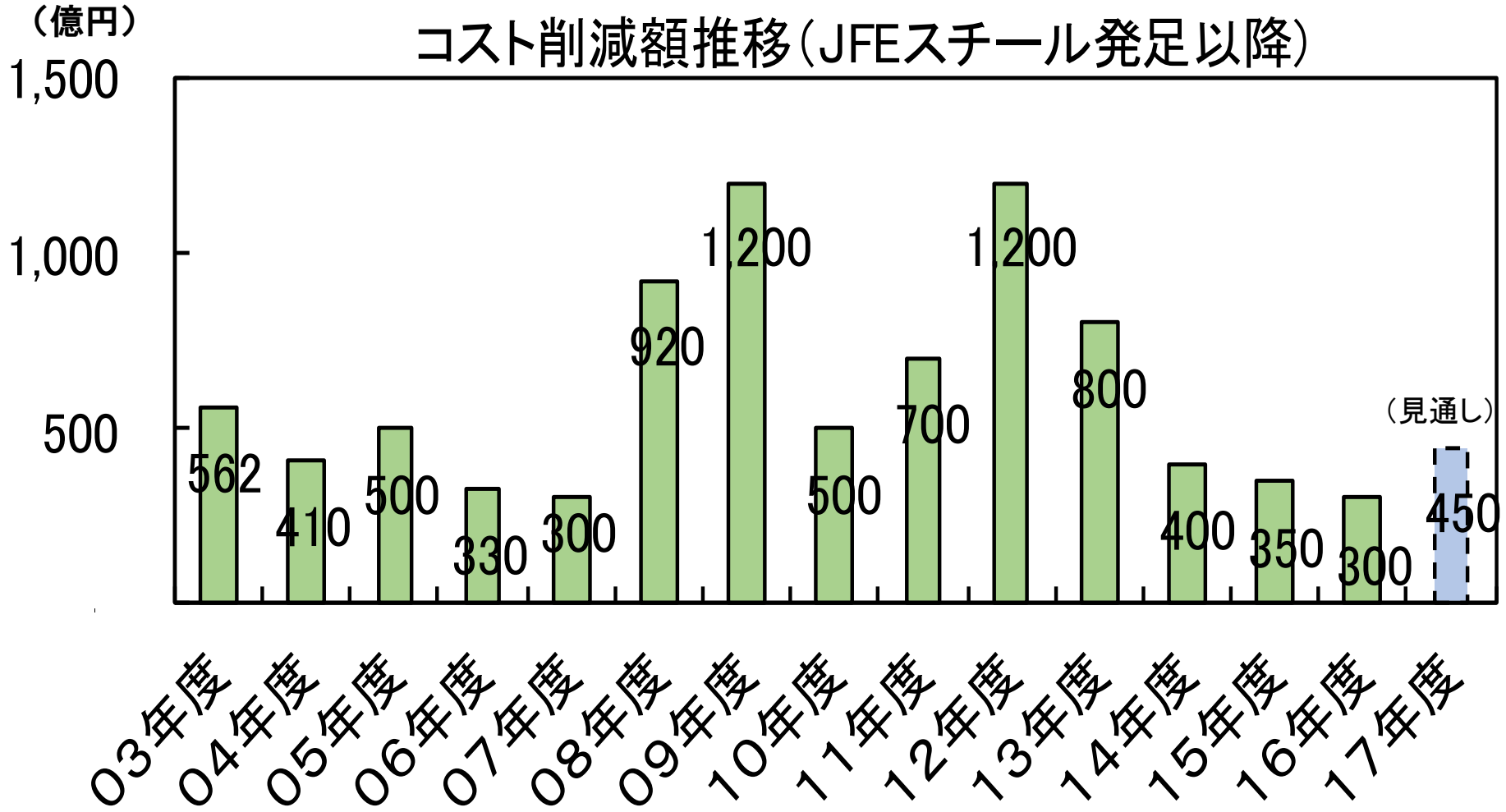


(円/t) LNG市況

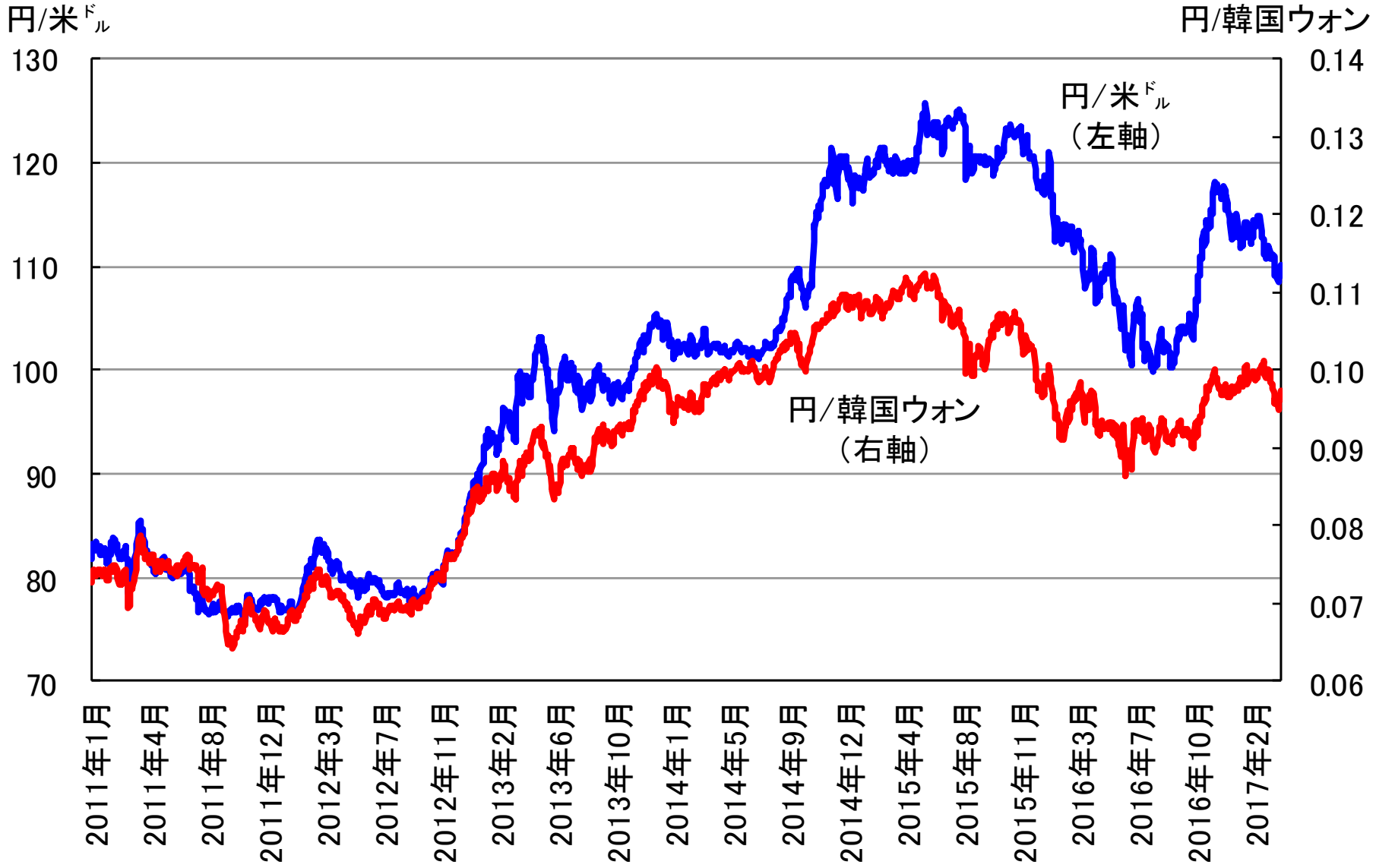
原油・バンカー市況



コスト削減推移（鉄鋼事業）



為替レート推移（対米ドル、対韓国ウォン）



Copyright © 2017 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい